

## 湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学  
所 属 リハビリテーション学科  
名 前 櫻井好美  
作成日 2023 年 9 月 30 日

### 1. 教育の責任

私は、湘南医療大学の保健医療学部(看護学科 130 名、リハビリテーション学科理学療法学専攻 40 名、作業療法学専攻 40 名)において、主として理学療法学専攻学生の専門教育科目を担当している。理学療法学専攻は、厚生労働省が認める国家資格である理学療法士免許の受験資格を与えることを主な目的としている。私が主として担当している専門教育科目は、国家試験に定められた理学療法学に関連した 6 科目 (6 単位計 165 時間)とその他の科目 1 科目(1 単位 15 時間)である。この他には、研究法演習(1 単位 30 時間)や卒業研究(4 単位 120 時間)を担当している。

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻を卒業したほとんどの学生は理学療法士として病院や施設で障害を持った人々に運動療法を実施することになる。彼らが対象とする患者たちの障害像は同じものではなく、大学で学んだ知識や技術を個々の障害像に合わせるための工夫や、対象者に対する説明能力を養う必要がある。

また、湘南医療大学では看護学科・理学療法学専攻・作業療法学専攻の全学生を対象として大学独自の科目「チーム医療論」を設置している。私もファシリテーターとして科目を担当し、学生が他職種との視点の相違を認識しつつ、対象者の個性性に即したチームとしての最適解を模索する演習をサポートしている。

大学院の授業では、オムニバスとして 3 科目(18 回 36 時間)、このほかに大学院生 1 名に対して履指導教員として修士論文の研究指導を行っている。

### 2. 私の理念・目的

#### 1) 私の理念

私の理念は、次の 3 点である。

#### 1. 理学療法士として心身ともに健全な育成に寄与したい

理学療法士が対象とする患者の多くは、身体に何らかの障害があり日常生活に制限のある方々である。疾患や障害の予後、将来の生活への不安を抱える方々に対応するためには知識・技術の修得はもちろんのこと、安心感を与え信頼を得る態度をとる必要がある。また、対象者に共感の姿勢は重要であるが、過度な感情移入によって冷静な

判断に支障をきたすようなことがあってはならない。

理学療法士を志す学生は「人の役に立ちたい」「弱者に寄り添いたい」という思いが強い性質がある。その心は尊重しつつも、患者の言動に振り回されず適切に状況判断ができる精神力を育てたい。

## 2. 理学療法における機能解剖、バイオメカニクスの意義について理解を深めさせたい

理学療法士が他の医療職種と異なる点は、身体運動のメカニズムを熟知し、動作障害の原因を解剖学的、生理学的、力学的に分析し解決できることである。機能解剖学とバイオメカニクスは理学療法士のアイデンティティと捉えている。

## 3. 生涯にわたる自己研鑽の意識づけを行いたい

医学は日進月歩であり、理学療法に関する情報も日々アップデートされている。理学療法士を続ける限りは一生学び続ける意欲を持たせたい。

### 2) 理念をもつに至った背景

私の母校である北里大学では建学の精神である「叡智実践」の理念のもと、医学・医療は「実学」であり、知識と技術を対象者に還元することが重要であると教育している。学生の興味関心や得意分野を伸ばすための支援が充実している。そのため、学生時代から自分の強みや目指す将来像を強く意識することができた。私がバイオメカニクスを研究対象としていることや教育に従事しているのは、学生時代の教育の賜物であると感謝している。

### 3. 教育の方法・戦略

対象者に対して最適な理学療法介入方法を選択・実践するためには、基礎となる知識を増やすことが大切である。理学療法では臨床推論能力が重要視されるが、これは、身に着けた知識と過去の経験から、痛みや動作障害の原因を1つ1つ検証し絞り込んでいく作業である。適切に臨床推論を行うためには、できるだけ多くの「仮説」を立てることが必要である。仮説は当然想像や思い付きで立てるものではなく、科学的根拠に基づいたものでなくてはならない。

私は学生の臨床推論能力を育成するために、1年次は知識をできるだけ多く記憶する時期、2年次が知識を記憶し、増やすとともに活用法を学ぶ時期、3年次が知識の活用と実践に向けた準備をする時期、4年次が実践能力と考える力と新しいものを自ら発見する能力をつける時期として教育を行っている。また、大学院教育を通して、研究者としての能力を育成している。以下に各年次の具体的目標と工夫について示す。

学部 1~2 年次	基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識を記憶する(講義中心) 工夫) 体験し実感する演習を含める 例:動作の実演を通して筋活動を学ぶ 全講義で小テストを実施し、重要事項の確認を行う 小テストは数回に1回論述問題を含めている
学部 2~3 年次	これまでの知識を活用して問題を解く考え方を学習する(演習中心) 工夫) CG や動画を活用し、模擬症例の動作分析を行う プレゼンテーションを通して他者に伝わる説明方法の工夫を わせる
学部 3~4 年次	識を活用した実践力を育成する(学内実習、臨床実習) 考える力、新しい発見をするための研究方法について学ぶ(卒論) 工夫) 卒業研究テーマは、学生の日々の疑問を出発点にしている
大学院レベル	研究を通して、自ら新しい発見をする能力を養う

#### 4. 学習成果

担当している基礎運動学(1年次)、運動機能学・臨床運動学(2年次)、動作解析学(3年次)では、開学以来学生からの授業評価は平均は 4.3/5 点満点の評価を得ている。特に「教員の熱意」「わかりやすい講義を心がけたか」の項目で高得点を獲得できている。

国家試験対策として行っている模試では、早期から比較的高得点となっている。

国家試験の合格率は 2021 年度 100%、2022 年度 100%である。

#### 5. 改善のための努力

##### 1) 物理の素養のない学生、物理学に拒否反応を示す学生の増加

本学学生の特徴として、理系科目に苦手意識が強い者が多いこと、高校時代に物理学を選択せず素養のない者が多いことがあげられる。そのため、講義では導入でできるだけ数式や理論は用いず、学生が日常的に目にする現象や過去に経験しているであろう現象を例に挙げ、興味関心を引くようにしている

##### 2) 長文読解が苦手な学生の増加

教科書を指定しても文章から必要な情報を読み取ることが困難が学生が多く、ほとんど活用されていない実情がある。近年の学生は動画やごく短文の情報、図表など簡潔にまとめられた情報のみを活用しがちである。そのため、現象の定義や用語の理解が乏しく、曖昧な定義づけで誤った解釈をしてしまうことが多い。講義では、教科書を活用し図表など視覚的な情報ではなく、文章から理解することの必要性を説明している。

## 6. 今後の目標

### 短期目標

学会・研究会に参加する。(2023 年度)

授業後に検討会を行う。(2023 年度)

[長期目標 授業評価アンケートで平均点を 4.5 点以上とする]

### 【添付資料】

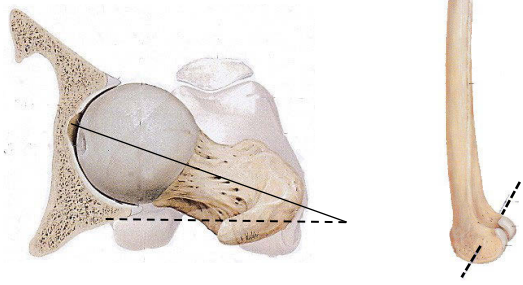
- 1) 講義資料の例
- 2) 小テストの例
- 3) 動作解析学学生成果物の一部
- 4) 卒業研究指導テーマ

## 添付資料

### 1) 講義資料の例

#### 大腿骨前捻角

大腿骨体と骨頸の間に存在する相対的な捻じれである。  
 正常では、上方からみると大腿骨頸は大腿骨内外側顆を通る軸に対して約10~15°前方に位置している。  
 この捻じれは正常前捻と呼ばれる。  
 正常な頸体角と15°の前捻により最適なアライメントと関節の適合がなされる。



#### 回旋と側屈のカップリングモーション：頸椎

C2~7の関節面が45°傾いていることは、前額面と水平面で運動が生じることを意味する。

前額面の運動：側屈  
 水平面の運動：回旋

中・下位頸椎の側屈運動と回旋運動には、同側型のカップリングモーションが生まれる。

右側屈 → 右回旋  
 左側屈 → 左回旋

環軸関節の側屈運動と回旋運動には、対側型のカップリングモーションが生まれる。

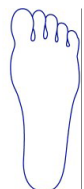
右側屈 → 左回旋  
 左側屈 → 右回旋

#### 支持基底面は？

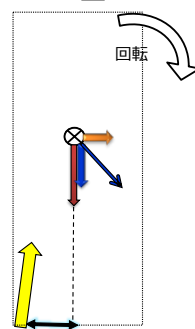
杖



杖

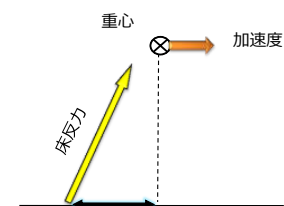


#### 床反力作用点をずらせば



重心には下向きの加速度とともに  
 回旋する側への加速度が生じる

#### 前後左右への重心の移動



重心の加速度は床反力作用点と重心線との距離に比例する

つまり、床反力作用点と重心線の距離を大きくすれば、重心に加わる加速度を大きくできる

2) 小テストの例

学籍番号

氏名

1. ( )に適切な語を入れなさい。⑫から⑮は順不同である。各1点

垂直軸の運動面は(① )面である。

矢状軸(または矢状水平軸)の運動面は(② )面である。

前額軸(または前額水平軸)の運動面は(③ )面である。

肩関節屈曲運動の運動軸は(④ )軸)、運動面は(⑤ )面である。

肩関節外転運動の運動軸は(⑥ )軸)、運動面は(⑦ )面である。

頭頸部の回旋運動の運動軸は(⑧ )軸)、運動面は(⑨ )面である。

股関節運動のうち矢状軸の運動は(⑩ )である。

股関節運動のうち矢状面の運動は(⑪ )である。

手関節の運動は(⑫ ) (⑬ ) (⑭ ) (⑮ )である。

2. 各関節・体節の運動方向または肢位を答えなさい。各1点

(1) 前額面で後ろから観察している。左股関節の肢位は(① )である。

